

5 薬剤耐性菌対策

(1) 対策

- ・ 耕種の防除が最も重要(各作物の病害虫防除の項目を参照)
- ・ 耐性の発達を防ぐために系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
同一薬剤(成分)を連用しない。(混合剤は成分を確認して、同じ成分の薬剤を連用しない)
登録のある薬剤の中から、異なる系統の薬剤でローテーション散布を行う。

(2) 薬剤系統別耐性菌発生リスク

- ・ 日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会作成の各ガイドラインを参考にする。
- ・ 特に、水稲のいもち病ではQoI剤やMBI-D剤、野菜類のうどんこ病や灰色かび病、炭そ病、ぶどうのべと病では、QoI剤、SDHI剤などで耐性菌発生が問題となっている。

詳細は日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会ホームページを参照。

<http://www.taiseikin.jp/guidelines/>



日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会では、国内外での耐性菌発生事例やわが国における作物の栽培・病害防除体系等を勘案して殺菌剤使用ガイドラインを以下の通り策定している。今後、これが幅広く生産現場に普及・活用されることを期待する。

- A) [イネいもち病防除におけるQoI剤及びMBI-D剤耐性菌対策ガイドライン](#)
- B) [野菜・果樹・茶におけるQoI剤及びSDHI剤使用ガイドライン\(20181112更新：タマネギ追加\)](#)
- C) [耐性菌対策のためのCAA系薬剤使用ガイドライン\(20181112更新：タマネギ追加\)](#)
- D) [DMI剤ガイドライン\(20181112更新：ダイズ追加\)](#)

参考資料

1. [作物別・病原菌別耐性菌発生リスク表 \(20221031現在\)](#)
2. [耐性菌対策ガイドラインに関するQ & A集](#)